

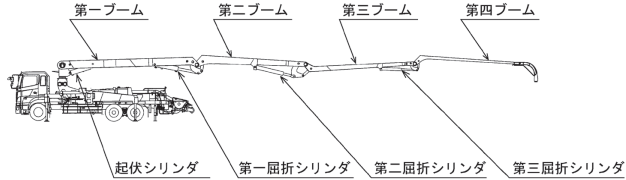
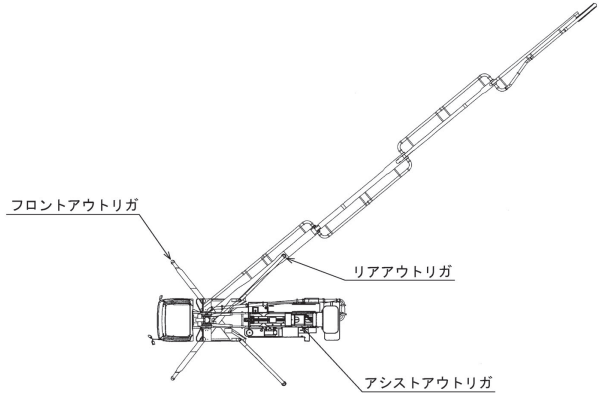
極東開発工業

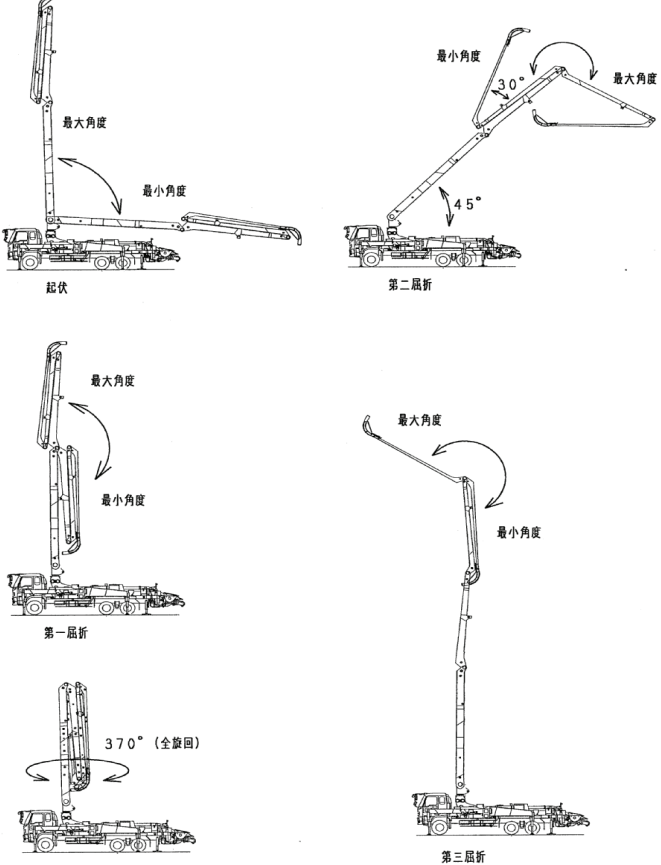
適用範囲		モデル名		PH65(A)-19A(B)		
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ	
			最大吐出量	m <sup>3</sup> /h	65(55)	
			最大吐出圧力	Mpa	1.8(2.2)	
			アーム最大地上高	m	19	
適用号機		99P050001~				
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値		
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	-		
		ローター回転数	回/min	35±1		
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(1530 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )		
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(シャシで異なる)		
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
	カクハツウチ 攪拌装置	回転速度	min <sup>-1</sup>	21±3		
		チェーンのたわみ	mm	20・チェーン中央		
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(1530 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )		
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(シャシで異なる)		
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
	真空ポンプ	圧力設定値	MPa	0.083		
		(設定値到達時間)	(min)	(10分以内)		
圧力降下許容量		MPa	0.007			
(保持時間)		(min)	(60)			
	Vベルトのたわみ	mm	<電動モータ駆動>			
作業装置	シリンダー 自然降下量	ブーム(1)シリンダー	mm	0.5 以下		
		ブーム(2)シリンダー	mm	0.5 以下		
		ブーム(3)シリンダー	mm	0.5 以下		
		ブーム(4)シリンダー	mm	0.5 以下		
		ブーム(5)シリンダー	mm	-		
	(測定時間)	(min)	(10)			
	(作動計測条件)		(-)			
(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.1]				
☆ ブームシリンダー 作動時間	ブーム(1)	伸び	sec	55±10		
		縮み	sec	55±10		
	ブーム(2)	伸び	sec	65±10		
		縮み	sec	80±10		
	ブーム(3)	伸び	sec	45±10		
		縮み	sec	55±10		
	ブーム(4)	伸び	sec	20±10		
縮み		sec	30±10			
ブーム(5)	伸び	sec	-			
	縮み	sec	-			
	(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(1530 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )			
	(作動油温度)	(°C)	(50±10)			
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.3]			
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	油圧	Mpa	-	
			水圧	Mpa	2.2	
			飛距離	m	-	
	空圧機	吐出圧力	MPa	-		
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(-)		
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(-)		
	(作動油温度)	(°C)	(-)			

☆印：新車基準値を表す(参考値)

適用範囲		モデル名		PH65(A)-19A(B)		
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ	
			最大吐出量	m <sup>3</sup> /h	65(55)	
			最大吐出圧力	Mpa	1.8(2.2)	
			アーム最大地上高	m	19	
適用号機		99P050001~				
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値		
油圧装置	☆ 油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	24.7±1		
		弁シリンダー油圧	MPa	-		
		攪拌モータ油圧	MPa	8.0±1		
		ブーム油圧	MPa	27.5±1		
		ACCガス封入圧力	MPa	-		
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(1530 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )		
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(シャシで異なる)		
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
		☆ 旋回ベアリング 取付ボルトの締付	外輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8	
			内輪取付ボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8	
旋回ボルトの交換基準	年		特記 4)			
旋回速度	sec		75±10			
☆ 旋回作動速度	(旋回作動角度)	(度)	(360・全旋回)			
	(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(1530+0 -50)			
	(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	(シャシで異なる)			
	(作動油温度)	(°C)	(50±10)			
	☆ シリンダー 自然伸縮量	各垂直シリンダー	mm	0.5 以下		
(測定時間)		(min)	(10)			
(作業装置姿勢)		[図面No.]	[図 No.2]			
特記事項	1)ポンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うのでオペレータに異常有無を確認し異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ポンプの場合は斜板を最大に切り替えた状態とする。 3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。					

☆印：新車基準値を表す(参考値)

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p> 
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p>
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p>